

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月10日実施)	総合評価(3月10日)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①多様な進路選択に対応できる教育課程を編成し、生徒の希望にえられるように学習の機会を提供する。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①生徒の希望する進路に沿った選択科目を履修するよう指導する。 ②思考・判断・表現の活動を多く取り入れ、主体的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>③感染防止に努め、可能な限り学校行事を開催するとともに、生徒が主体的に取り組む学校行事・委員会活動となるよう支援する。</p>	<p>①早い時期から生徒に進路を意識付けし、選択科目説明会で丁寧な説明を行っていく。 ②課題を発見し、解決する、伝える、情報を活用する活動を多く取り入れ、授業研究に積極的に取り組む。</p> <p>③生徒会本部役員や各種委員を通じ、学校行事や委員会活動等に生徒の積極的意見を取り入れて、生徒が主体的に運営・活動するように支援する。</p>	<p>①生徒による授業評価 ②生徒による授業評価、研究授業の反省 ③各行事における生徒及び教員へのアンケート</p>	<p>①教育課程を生徒がより履修しやすいよう再編成した。新教育課程の観点別評価の状況を分析し、評価が妥当かどうか検証した。 ②生徒による授業評価の結果を教科ごとに分析し、授業改善に役立てた。研究授業後に全体研修会を実施し、端末を利用した活動例を職員全体で共有した。 ③体育祭や岸高祭、球技大会等の学校行事において、生徒会本部役員や各種委員の意見を積極的に取り入れることで、生徒が主体的に運営し、活動することができた。</p>	<p>①新教育課程の評価方法を職員全体に周知し、指導と評価の一体化を図る必要がある。 ②本年度は研究授業を10月、全体研修会を11月に行ったが、1学期から各教科での取り組みを集約し、職員全体に周知できる機会を設けたい。 ③コロナ禍でいろいろな面で制限があった学校行事を次年度に向けてどのように支援していくかが課題である。</p>	<p>①今後も生徒が希望に沿った選択科目を履修できるように、教育課程を編成していくことが大切。 ②「学習のねらい」については、生徒が知的好奇心をかきたてられるように、目的を明確にしている。ただくと良い。 ③生徒と学校との関係が良好になるような取り組みを進めてほしい。</p>	<p>①新教育課程の再編成により生徒が選択しやすくなった。指導と評価の一体化については職員への周知が必要。 ②ほとんどの教科で前期より後期の方が授業評価が高かった。一方で、生徒による授業評価をGoogleフォームで回答させたが、紙での提出より回答率が下がった。 ③制限のある中であったが、生徒主体の学校行事や生徒会活動を行うことができた。来年度は単純に以前の学校行事に戻すのではなく、改めてどのように計画していくかが課題である。</p> <p>①新教育課程の評価方法を職員全体に周知し、指導と評価の一体化を図っていく。 ②できるだけ多くの生徒による授業評価になるよう、HRの時間に実施するなど工夫していく。 ③体育祭や岸高祭、球技大会等の学校行事を、さらに生徒が主体的に運営し、活動するために、生徒会本部役員や各種委員の意見を積極的に取り入れ、支援していく。</p>	
2	生徒指導・支援	<p>①礼儀正しさを意識して、安心・安全な学校生活を送れるよう支援するとともに、個に応じた教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②自分自身に目を向け、学校行事や部活動を通して、奉仕や協調の精神の涵養を図る。</p>	<p>①定着しつつあるルールのさらなる浸透を目指し、学校全体で足並みを揃え、根気強く指導を継続していく。 ①相談箱を増設し、生徒が気軽に相談できるような体制作りを進める。</p> <p>②感染防止に努めながら、生徒が自主的・主体的に取り組む部活動等の運営を目指す。</p>	<p>①掲示物やHRなどで注意すべき点を生徒に周知し、頭髪や服装などの定期的な指導も継続して行っていく。 ①生徒に各学年の相談係を周知し、学年会での情報交換も密に行い、ケース会議などにスムーズに繋げる体制を作っていく。</p> <p>②学校行事や部活動に自主的に取り組むだけでなく、地域と連携する学校行事や地域の活動へも積極的に参加するよう支援体制を整える。</p>	<p>①各学年の指導対象者の割合。 ①生徒からの相談件数と必要に応じたケース会議が開けたかどうか。 ②入部率を含めた部活動等の活動状況、生徒アンケート、地域連携活動への参加数。</p>	<p>①頭髪は、まだ若干染髪を行う者がいるが、皆その後の指導には従っている。現在の指導の多くは、黒染めの色落ちに対する指導となっている。服装に関しては、大部分の生徒が規準を守れるようになった。 ①相談箱の利用はほとんどないが、各学年での情報共有はできていて、ケース会議も適宜実施できていた。 ②入部率は約63%で昨年とほぼ同じである。地域連携活動の参加に関しては、コロナの関係で難しい部分があったが、短歌交流や音楽交流等は実施できた。</p>	<p>①頭髪・服装に関しては、大部分の生徒が規準を守れるようになってきたので、今後も引き続き、丁寧な指導を行っていく。 ①現在の体制が浸透してきたので、今後も生徒の様子に気を配り、早め早めの対応ができるようにしていく。 ②コロナ禍で若干下がってしまった入部率をどのようにして戻すかが課題である。</p>	<p>①全校生徒の大部分が規準を守れているということは、指導が浸透しており、全体に良い影響を与えていると思われるので、今後も生徒との関わりを深めてほしい。 ①生徒が頼る先があることが重要で、そのためにも意見交換を大切に個人で抱え込むことなく、共有をきちんとすること、必要があれば外部も利用すると良い。事後対応にならないように、日々の関わり方が大切。 ②入部率を評価にするだけでなく、部活動、私生活と学校生活の関係に注目したい。</p>	<p>①全校生徒の大部分が規準を守れており、指導が浸透している。今後も生徒との関わりを深めることが大切である。 ①教育相談体制が浸透してきており、生徒から直接またはアンケートなどにより、生徒の状況が把握できるようになった。今後もこの体制を継続し、生徒が気軽に相談できるようにしていく必要がある。 ②本校を志願する生徒の多くが学校行事や部活動に魅力を感じている。地域の活動等を実施できたが、コロナ禍で実現できなかった活動もある。</p> <p>①教員一人ひとりが授業や学校行事等を通じて生徒との関わりを深め、丁寧な指導を行っていく。 ①教育相談体制の周知徹底を図るとともに生徒の様子に気を配り、学年会、グループ会での情報共有を密にして、速やかに対応できるようにしていく。 ②来年度は入部を促す活動や学校行事等を積極的にサポートして、生徒の学校生活をさらに充実させるよう支援していく。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月10日実施)	総合評価(3月10日)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①自己理解を深め、進路意識を向上させて、生徒一人ひとりが自らの進路希望を実現できる進路指導の充実を図る。	①外部の教育力を活用した進路指導を年間を通して実施する。  ①生徒の進路希望が実現できるよう、きめ細かな進路指導を行う。	①進路説明会や職業ガイダンスなどの進路指導を計画的に実施する。  ①総合的な探求の時間等を活用し、SDGs講演会などを計画し、実施する。  ①より丁寧な指導が可能になるよう、進路資料を新たに改定する。	①進路指導を計画的に実施できたか。  ①外部の教育力を活用した講演会等を実施できたか。  ①主な大学への進学数・割合  ①進路満足度。	①進路説明会や職業ガイダンスを含め、進路指導全体を計画通り実施した。  ①外部の教育力を活用したキャリア講演会を計画通り実施した。  ①改定した進路資料を指導に活用し、主な大学への進学数・割合を昨年並みに保つと共に、進路満足度を上昇させることができた。	①外部教育力の新規開拓とこれを利用し一層充実したキャリア育成・支援を行なっていくことが課題である。  ①不安定なコロナの状況下であっても、安定してキャリア支援が行えるよう柔軟に対応できる取組を計画していく必要がある。	①目標、取組、評価の観点、どれをとっても適切であり、他との有機的つながりがみとれる。また、「生徒の進路希望が実現できるよう」進路指導を行い、その結果「進路満足度を上昇させることができた」点は評価に値する。 ①「外部の教育力を活用した進路指導」や「外部の教育力を活用したキャリア講演会」によって、進路指導がどのように充実したか検証することが必要。	①生徒の進路希望が実現できるよう進路指導を行い、その結果進路満足度を上昇させることができた。今後も年間を通して安定してキャリア支援が行えるよう計画していく必要がある。 ①外部の教育力を活用して充実したキャリア教育が実現できた。キャリア講演会によって、進路指導がどのように充実したか検証することが必要。  ①外部の教育力を活用した進路指導やキャリア講演会後にアンケートを実施するなどして、取組によって進路指導がどのように充実したか検証する。	
4	地域等との協働	①交流や協働活動を通して、生徒の社会性の育成を図るため、これまでの地域との連携を継続する。  ②学校運営協議会を中心とした、地域に開かれた学校づくりに取り組む。	①感染防止に努めながら可能な交流活動を工夫し、地域と共にある学校づくりを進める。  ②学校運営協議会等により、地域等の外部からの意見等を聞く機会を設ける。	①生徒が地域の人や異年齢の方々との協働を通じて自分の考えを広げ、行動できるよう事前・事後の指導を行う。  ②少なくとも年1回は対面による学校運営協議会を開催する。対面で行えない場合は、書面等できめ細かく情報交換を行う。	①感染防止に努めながら、生徒に自ら気付かせる事前指導・事後指導が行えたか。  ②学校運営協議会を開催し、意見を広く聴取することができたか。	①地域の方々からの大きな支援・協力を得て「すこやか祭り」を開催できた。 また、今年度もコロナによる厳しい状況の中、地域の保育園のご協力により、保育実習を実施することができた。 篠原西小学校の6年生担任の先生方や岸根高校国語科との協力で、短歌交流を継続できた。 城郷小机地域ケアプラザの種々の活動に、生徒たちが積極的に参加し、ボランティア活動が徐々に広がりつつある。 ②学校運営協議会を対面で開催することができた。	①篠原西小学校との交流については、クラブ交流やハッピーランドへのPTAの参加協力などについて、どのような方法が可能かなどを検討していく必要がある。  ②コロナの状況に応じて、実際に行事を見ていただく機会を設けた。	①地域連携の柱となる交流活動について、実現困難な状況の中でも、できることから取り組む意識を具体化していた。短歌交流等の、活動を継続できたことは、地域にとっても大変意義深い。次年度も引き続き工夫しながら取組を検討できるとよい。 ②学校運営協議会開催によって職員の方々と直接意見交換をしたり校内の雰囲気を感じたりすることができた。	①コロナ禍でありながら、すこやか祭り、保育園実習、短歌交流、音楽交流、ボランティア活動、クラブ交流について事前に周知し、できるだけ多くの生徒を参加させて、地域との交流を体験させる。  ②学校運営協議会の意見交換が、各教科や生徒の学校生活の改善につながるよう職員に周知し、運営していく。	
5	学校管理 学校運営	①環境に配慮した設備・備品等の整備・活用に取り組む。  ②防災意識の向上を図る。  ③人権についての知識を深め人権尊重精神の涵養を進める。	①教員の働き方改革を推進するため、教育環境の向上に努めるとともに、備品等の整備・活用に取り組む。  ②防災意識の向上を図るために感染防止に配慮した防災教育を工夫する。  ③人権について、知識と理解を深める。	①職員による円滑な業務を支援するため、設備・備品等の整備・活用を推進する。  ②ICTの活用を含め、感染防止を踏まえた中での効果的な防災訓練等を実施する。  ③受容的・共感的等の人間関係の能力を理解するめに、効果的な人権研修を実施する。	①設備・備品等の整備・活用を推進できたか。  ②防災避難訓練や防災教室実施後のICTを活用したアンケート結果  ③研修後のアンケート結果	①ICT機器や清掃用具、校内の備品等の整備を着実に進めることができた。また、コロナ感染症対策関連物品等も適切に整備した。  ②第1回防災避難訓練では、グラウンドへの分散型による避難訓練を実施した。第2回防災避難訓練では、火災を想定した防災学習を実施した。いずれも、教材やアンケートはICTを活用し、効果的に実施できた。  ③SHIPの星野慎二氏による講義では、LGBTQに関する最新の内容を知ることができた。生徒の変化に気づくこと、ポジティブな環境づくりの大切さを学んだ。	①関係部署とさらに連携して、設備・備品等の整備を推進していきたい。  ②地域防災の意識を向上させるため、地域と連携した防災活動や効果的な防災教育について検討する。  ③適切な研修テーマの設定と、よりよい研修計画を検討する。	①②③危機管理意識を職員・生徒が共有し、コロナ対策における健康管理や防災訓練を工夫して実施した。また、多様性を重視した研修などをICTの活用を含め、人と人のつながりを大切しながら平常時以上の取り組みができていくと感じる。 生徒・職員のアンケートなどをしっかり検証、見える化する事で、方策を職員間で共有・発展させ、生徒の自立性に期待する。	①ICT機器や清掃用具、校内の備品等の整備を着実に進めることができた。設置した機器やコロナ感染症対策関連物品を適切に管理していくことが必要。 ②防災訓練については、ICTを活用し、効果的に実施できた。来年度は地域の防災訓練等とどのように連携していくかが課題。 ③人権研修により、LGBTに関する職員の意識が高まった。来年度も効果的な研修の計画を推進する必要がある。	